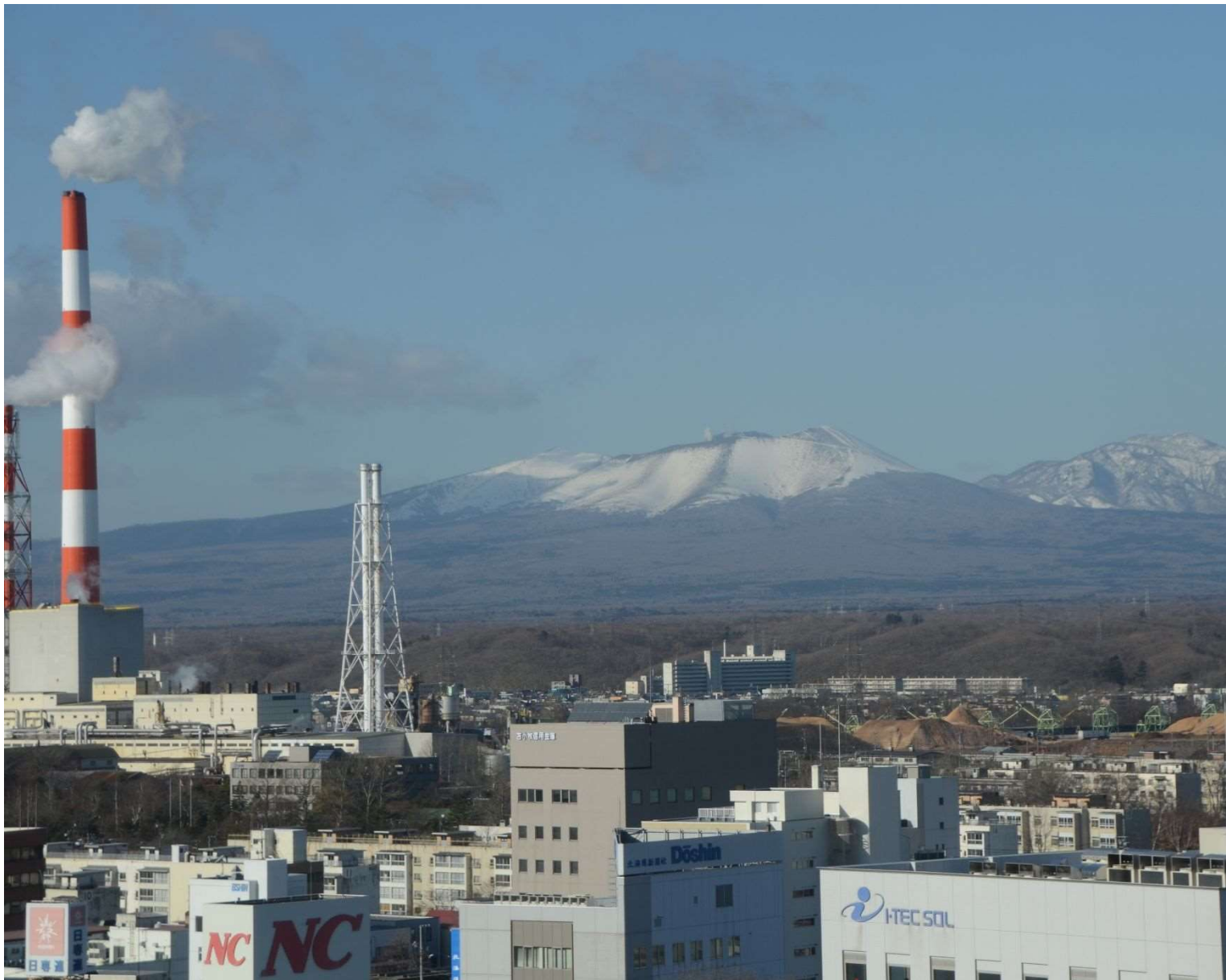




苫小牧市環境白書

令和6年度版

(令和5年度実績)

苫小牧市環境衛生部

苫 小 牧 市

「2050ゼロカーボンシティ」への挑戦

近年、地球温暖化を起因とする気候変動は、世界中の人々や生態系に影響を与える深刻な問題となっており、世界各国における地球温暖化抑制に対する社会の意識や関心が高まる中で、脱炭素社会に向けた動きが活発化しています。

2015年に合意されたパリ協定では、「世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2度より十分低く保つとともに、1.5度に抑える努力を追及すること」とされ、また、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書においては、「気温上昇を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

我が国では、2020年10月26日に内閣総理大臣所信表明で2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことが宣言されました。

本市においても、地球温暖化対策の一つとして、2008年にCCS（二酸化炭素回収・貯留技術）に関する地質調査が開始され、2010年に「苫小牧CCS促進協議会」を設立、2012年に苫小牧地点での実証試験が決定し、2016年4月から2019年11月にかけてCO₂（二酸化炭素）圧入量30万tを達成しております。また、二酸化炭素を資源として再利用するカーボンリサイクルの取り組みが、新たに開始されたところでもあります。

本市としては、これまでの経緯を踏まえ、地球温暖化対策の更なる推進に向けた決意を示し、持続可能な快適都市の実現と、豊かな自然と調和した環境を次世代の子どもたちに引き継いでいくため、市民や地域、事業者の皆さまと一体となって連携・協働しながら、2050年までに二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することを宣言いたします。

令和3年（2021年）8月24日

苫小牧市長 岩倉 博文

刊 行 に あ た っ て



本市は世界的にも珍しい溶岩円頂丘をもつ樽前山とその山麓に広がる豊かな森林、さらに全国屈指の渡り鳥の中継地としてラムサール条約に登録されているウトナイ湖を有するなど自然環境に恵まれた中で、製紙業を始めとする工業都市として発展してきた歴史を持ちます。

昭和 48（1973）年には、公害のない健康で安全な都市環境の創造を目指す「人間環境都市」を宣言し、当時国内で問題となっていた大気汚染や水質汚濁などの公害対策に力を注いできました。

平成 11（1999）年には、地球規模の環境問題に対応するため、「苫小牧市環境基本条例」を制定するとともに、平成 15（2003）年には、快適な環境の保全及び創造を目指す「苫小牧市環境基本計画」を策定しました。

令和 3（2021）年には、国内でも温室効果ガスの排出削減に向けた取組が加速化する中、脱炭素社会の実現に向け、2050 年までの二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」への挑戦を宣言し、世界共通の課題である気候変動問題に、全市を挙げて取り組む決意をしました。

本市は、令和 4 年（2022）年 9 月に国から重点対策加速化事業に採択され、令和 5 年（2023）年 11 月には全国モデルとなる手法で 2030 年までに地域の脱炭素を実現する脱炭素先行地域に選定されるなど、温室効果ガス削減、再エネ導入の積極的な取組を進めてきました。今後も、市、事業者、市民が推進主体となり、相互に連携しながら様々な施策に取り組んでまいります。

本書は、令和 5（2023）年度に実施した本市の環境保全及び創造に関する施策等をまとめたものであり、ご覧になった皆さんが環境問題への理解をさらに深め、自らが行動するきっかけになれば幸いです。

令和 6（2024）年 1 1 月

苫小牧市長 岩 倉 博 文

人間環境都市

「人間環境都市」は、人間主体のまちであり、豊かな自然と調和した文化の薫り高く潤いのある快適な生活環境の中で、共に生き生きと心豊かに暮らしながら、全ての市民が持てる能力で社会に貢献し、未来に向かって挑戦し続けるまちです。